

共に主を仰ぐ群れ

[ヤコブの手紙 2章 1～10節]

わたしの兄弟たち、栄光に満ちた、わたしたちの主イエス・キリストを信じながら、人を分け隔てしてはなりません。あなたがたの集まりに、金の指輪をはめた立派な身なりの人が入って来、また、汚らしい服装の貧しい人も入って来るとします。その立派な身なりの人に特別に目を留めて、「あなたは、こちらの席にお掛けください」と言い、貧しい人には、「あなたは、そこに立っているか、わたしの足もとに座るかしていなさい」と言うなら、あなたがたは、自分たちの中で差別をし、誤った考えに基づいて判断を下したことになるのではありませんか。わたしの愛する兄弟たち、よく聞きなさい。神は世の貧しい人たちをあえて選んで、信仰に富ませ、御自身を愛する者に約束された国を、受け継ぐ者となさったではありませんか。だが、あなたがたは、貧しい人を辱めた。富んでいる者たちこそ、あなたがたをひどい目に遭わせ、裁判所へ引っ張って行くではありませんか。また彼らこそ、あなたがたに与えられたあの尊い名を、冒瀆しているではないですか。もしあなたがたが、聖書に従って、「隣人を自分のように愛しなさい」という最も尊い律法を実行しているのなら、それは結構なことです。しかし、人を分け隔てするなら、あなたがたは罪を犯すことになり、律法によって違犯者と断定されます。律法全体を守ったとしても、一つの点でおちどがあるなら、すべての点について有罪となるからです。

[1] 教会の「壁」

教会は実は「壁」で出来ています。建物が文字通りそうですよね。四つの壁で囲まれている。それはもちろんどんな天候でもこの中で礼拝や集会が持てるため、この中に集う者たちが守られるためです。プライバシーも守られる。まあ当然といえば当然のことです。私たちは教会を建て上げるといって、どういう場所でどういう建築でどれくらいの予算で…とすぐにいわゆる「箱」のことを考えてしまうということがあるのですが、それは根本的なことではないと思います。

今木曜日の祈り会で**出エジプト記**を読んでいますけれども、**幕屋建設**の規定が細かく出てくるのですけれども、この幕屋は一カ所にとどまらないのですよね。イスラエルの民は旅をする。幕屋も移動するのですよね。旅をすると言いますか。これを私たちに当てはめて考えてみると、何よりも**その共同体の中身が重要な**のだと思います。信仰の共同体というのは、固定しない。生きている。ですから、

私たち川越教会も毎週毎週違うはずなのです。それは新来者の方がいらっしやるとか、いないということではないと思います。私などが一番意識改革をせねばと思っているのですけれども、「また日曜日が来た」と思ってしまったら、それは単にルーティンになってしまい、とても内向きになってしまうことになりかねないと思うのです。私たちは、一期一会、毎週違う礼拝を、出会いをしているのだという意識が大事で、私たちの教会の壁というのは実は壁ではなく、すべて入口であり、扉でなければならぬと思います。

【2】さまざまな人が集まるのが「教会」

今日のヤコブの手紙のテーマは、「分け隔てしない」ということです。そもそも教会とは、建物があることによって既に分け隔てをしているとも言えます。「内と外」という。どんな建物でもまあそうなのですが…。きっと地域の人々はこの教会の存在をご存知の方も多いと思います。けれども自分とは無関係だと思われがちです。特に日本人はどうしても普通の感覚としてはキリスト教は外国の宗教だと思ってしまう。これも「壁」ですね。そう簡単なことではない。

しかしやはり私たちは教会とは何かという原点にいつも意識を帰らせるということが大事だと思います。それは主イエスの招きだと思います。「**全て疲れた者、重荷を負う者はわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう**」(マタイ 11:28)。この招きの「外」にいる人は誰もいません。それを伝えるためにこそ私たちの交わりがあるのですね。礼拝でみ言葉を聞き、共に讃美をささげる、そのことによって、この主がこの私たちの世界に生きている、ということを証しているのです。

今日の箇所は、ある意味とても分かりやすいと思います。1節にこうありました。「**わたしの兄弟たち、栄光に満ちた、わたしたちの主イエス・キリストを信じながら、人を分け隔てしてはなりません**」。人を差別するなということですね。そんなことは幼い時から知っていますと言いたくなります。ヤコブは何をそんなに困ったことだと言っているのでしょうか？2節から4節をもう一度読んでみましょう。

「**あなたがたの集まりに、金の指輪をはめた立派な身なりの人が入って来、また、汚らしい服装の貧しい人も入って来るとします。その立派な身なりの人に特別に目を留めて、「あなたは、こちらの席にお掛けください」と言い、貧しい人には、「あなたは、そこに立っているか、わたしの足もとに座るかしていなさい」と言うなら、あなたがたは、自分たちの中で差別をし、誤った考えに基づいて判断を下したことになるのではありませんか。**」

当時は今よりももっと身分制度や格差というものがあからさまにあったと思います。けれども教会の中ではある人を重んじ、ある人を蔑むというようなこと

があつてはならない、という訳です。これはよく分かります。全くその通りです。ここで書かれているようなことを目の当りにしたら、それは交わりを壊すと思います。ヤコブは「それは栄光に満ちた私たちの主イエス・キリストを信じた者としておかしいのではないか」と忠告しているのですね。本当にそうですね。「あなたを歓迎します」と看板を掲げている教会の中に足を運んでみたら、歓迎されなかった、むしろ隅に置かれたような印象を持ったということが起こったなら看板倒れと言いますか、その人はとても白けて二度と足を運ばないでしょう。

ただ私はここで思わされたことは、ヤコブさんの言われることはもっともなことなのですが、**教会の交わりは、どこかそういう過ちや不完全というか、人間の思いから完全に抜けきれないのではないか**とも思います。確かに分け隔てはいけません。特に教会のおもだった人がそれをすると深く傷つく人が出ます。牧師が一番それを肝に銘じなければなりません、私たちは皆どこかで人を見かけで判断したり、或いは生理的に受け入れられる・受け入れられないとか言ってしまい、**人を分け隔てする心から中々自由になれない私たちなのではないでしょうか？**

むしろ驚くことは、この初代教会、ヤコブが見ていた**教会に様々な人々が来ていた、という事実**です！このことに驚きたいと思います。世の中のサークルというのは大体「同類項」が集まるのです。その方が居心地がよい。何となく生活水準も似通っている。教会もそうなりがちですよ。エリートとは言わなくとも、ミッションスクールのイメージもそうかもしれません、清潔で小綺麗な集まり、そういうイメージが（勝手に）作られてしまうということもあります。けれどもこの初代教会は、**必ずしも居心地が良い交わりではなかったのではないのでしょうか？**そして、敢えて言えば、それが「教会らしい」教会なのではないのでしょうか？ ワンカラーであったら、その他のカラーの人は排除されてしまいます。

私は、ヤコブが語っている 2 章 8 節は大事な言葉かと思いました。—「もしあなたがたが、聖書に従って、「隣人を自分のように愛しなさい」という最も尊い律法を**実行しているのなら、それは結構なこと**です」。—まず自分を愛しなさい、と聖書が言っているのですよ、とヤコブは言うのです。他者を受け入れるということは、自分を愛することと無関係ではありません、むしろあなたは自分自身を深いところで受け入れられないから、**他者を分け隔てしているのではないですか、**とヤコブは語っていると思います。それは「最も尊い律法」だとさえ言っています。

私たち罪人を本当に受け入れ、愛して下さっている方は主イエスですね。それが教会の大黒柱です。ですからヤコブは初めに「**栄光に満ちた、わたしたちの主イエス・キリストを信じながら、人を分け隔てしてはなりません**」と語ったのでしょ

教会の主はキリストだ。私たちは皆この方によって救われ、招かれている。一緒にこの方を仰いで生きて行くところ、そこが教会だ、と言っていると思います。

[3] 教会らしい教会を

先日すぐその蔵造りの通りで、聖火ランナーが走ったのです。新聞にも記事が載っていて私はちょっと感動したんです。腹膜偽粘液腫という希少がんの病となり、臓器を9つも取ったと言われる**渡辺由香さん**（41才）が、今こうやって健康が保たれているのは皆さんの応援のおかげだ、それを現したいから二年前に選ばれた時は本当に嬉しかったと。トーチを掲げて笑顔で走っている渡辺さんとマスクをしながら沿道でエールを送ってる人たちの写真がありました。私はそれを見ながら「ああ、教会っていうのはこれだな」と思いました。私たちは皆ある意味この人生、個人走なんですよね。うずくまりたい時もありますよね。けれども、それを祈りながら見守り、声援を送ってくれる人々が沿道にいる。聖書的に言うならば、雲のような証人に囲まれて私たちは自分が走るべき工程を走る。**競争をしているのではありません**ね。それがいいなあと思いました。

また、「**映画館はある意味教会のような所だ**」と書いているライターの文章に出会い、面白いなと思いました。自分の心を育てるため、そして他者の人生に触れ、ある時は共感、或いは胸をかきむしられ、人生と世界を考えていくために映画がどれほど影響を与えているか。しかも映画館というのは、日常から2時間程切り離され、まるで**暗がりの中で祈りをささげている**ような時間を作ってくれる、それが自分を形成していると言うのです。私はそれ、実感致しますね。

どうでしょうか、川越教会もそんな「**人生を学べる、そして神様と出会う祈りの空間**」になれたらいいなあと思います。これは一人の人ではなくて、「**交わり**」がそれを作るのです。「交わり」を本当に大切にし、そしてもっとお互いのことを応援しましょう。褒めましょう！ 言葉は大事だと思うのです。

今日の箇所、2章5節で、「**神は世の貧しい人たちをあえて選んで、信仰に富ませ**」とありました。これは「誰か」のことではありません。**私たちのこと**です。私たちが信仰に富ませるために、**イエス様は私たちと同じ場所まで低く、いや、どん底にまで低く降って下さった**のです。**十字架の主のお姿**です。この主を本当に知ることに「**分け隔て**」からの**解放**もあるのではないのでしょうか。

ご一緒に全ての人の存在を受け入れ、共に喜ぶ教会を作って行きたいと思えます。あのマルコ2章の中風の者を運んだ4人が「呼吸を合わせなかったら天井から降ろせなかった」とどなたかが感想で言われていたのですが、本当に、**祈りの呼吸**を合わせて、このコロナの中ではありますけれども、いやだからこそ、教会らしい教会を作って行きましょう。お祈り致します。